

「5G時代のAIエッジコンピューティングが切り開くリアルタイムな世界」

- AIエッジコンピューティングに期待するもの
- AIエッジコンピューティングをめぐる最近の動向
- 5Gに向けたモバイルネットワークへのエッジAIの活用
- 5G時代を見据えたAIエッジコンピューティングの開発
- エッジAIにおける高速応答とリアルタイム性、精度向上への取り組み

講師	(座長 —— 総合司会) 東京大学 名誉教授	齊藤忠夫氏
	(株)情報通信総合研究所 主任研究員	左高大平氏
(講演順)	(株)NTTドコモ ネットワーク開発部 ネットワークアーキテクチャ 担当部長	遠藤英輔氏
	(株)エイシング 代表取締役/CEO	出澤純一氏
	KDDI(株) 経営戦略本部・次世代基盤整備室	杉田博司氏

事務局 ハイテクノロジー推進研究所 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-3-10 秀和青山ビル409 TEL 03(3498)0911(代) FAX 03(3498)0909

「マルチメディア推進フォーラム」のご案内

明日の社会発展をリードする情報通信を目指して

情報通信技術が人類の新しい生き方を作り出し、新しい社会を作り出していることは、21世紀に入ってから一般の人々を含め広く認識されるようになった。歴史的にも、人間は近くにいる人々との対話によって協力関係を構築し、グループで力を発揮することによって世界を変化させてきた。通信技術は対話の範囲を広げその能力を強化している。

マルチメディア推進フォーラムは日本の情報通信の発展のために、新しい技術とサービス、その社会的対応と法制度などを多角的に議論するフォーラムである。1990年ころから準備を進め、1994年からは現在の名称となって多くの方々の支援を得て、独占から競争へ、電話からインターネットへ、固定から携帯への変化をとらえ様々に論じてきた。特に情報通信ネットワークのサービスが競争環境で行われるようになった今日、競争状況のなかでなお、ネットワーク事業者は接続されるネットワークについて相互に理解し協力しなければサービスは成立しない。そのためには多くの事業者が相互に理解するチャンネルをオープンに持つことが不可欠であり、本フォーラムでの議論はネットワークサービスの円滑な発展のためにも貢献していると考えている。

通信技術はその発生以来、人と人が交信する技術として発展してきたが、21世紀に入り世界のすべての人が端末を持つようになり、市場は飽和してきた。また通信端末は長く固定端末であったが、携帯端末が主流を占めるようになってきた。このような展開は20世紀には見られなかったことで、21世紀に入ってからの変化は急激である。コンピュータに代表される情報技術は70年前に実現したが、ムーアの法則による超小型化の進展によって社会の隅々に情報処理技術を広げてきている。コンピュータの能力は高まり、大量情報の取り扱いによって、過去においては取り扱いが困難であった巨大な情報に適用することにより、いままでも気が付かなかった現象を分析し、われわれの知識を増やしつつある。このような技術は、すべての社会活動の基礎として広く産業化され、社会化されるようになっていく。

多くの情報は社会の様々な場面で発生する。それぞれの場面には多様な産業がある。家庭では家庭用の機器産業がある。鉄道では交通サービス産業がある。エネルギーを供給する電力産業、医療事業、自動車産業など多様な産業も情報処理と通信の技術を活用しながらサービスを展開しつつある。このような技術における通信はM2M通信(機械と機械の通信)と呼ばれるが、多様な背景を持つ技術のM2M通信について、その初期には産業分野ごとに通信ネットワークを構築する議論も稀ではない。しかし、各分野が独自に情報通信設備を構築することは現実的でない。M2Mネットワークの本質を理解しつつ、共通の通信インフラストラクチャを構成することは情報通信産業に課せられた課題である。同時に情報通信産業は個々のアプリケーションを形成する活用技術について、その特質を理解しなければならない。そのためには、技術を技術としてだけ論ずるのでは不十分である。技術を国際的視野から、社会的な側面を含めて分析し、関連する産業、法制度との整合性を含めて理解することが重要である。時には産業構造の変革、法制度の見直しを考えることも話題になる。

マルチメディア推進フォーラムは、情報通信技術の多様な発展について論じつつ、新しい市場の特性を理解した幅広い問題を考慮しながら、情報通信事業とサービスの将来を論じたいと考えている。

ICTはますます多様化し、産業としても社会としても重要性を増している。社会のICT化はその社会が国際的に競争力を維持するための基本的要素となっている。マルチメディア推進フォーラムはそのための技術、社会、普及の条件等を幅広く討議し、競争力のある社会を形成する方策について議論を進めている。今日に至る情報通信技術の変革期の中で、その適切な発展のために当フォーラムの果たして来た役割は大きい。このような役割は今後ますます大きくなると考えている。皆様のそれぞれの活動の発展のためにもマルチメディア推進フォーラムに対する御支援をお願いする次第である。

本フォーラムに関連する部門 あるいはご関心をおもちの部門にご回覧下さいますようお願い申し上げます。

■ 「マルチメディア推進フォーラム — PART 805 — 」開催内容
(主催)マルチメディア推進フォーラム

テーマ 「5G時代のAIエッジコンピューティングが切り開くリアルタイムな世界」

日時 2019年 10月 10日 (木) 13時00分～16時50分

時間	講演内容	講師
<p>(本フォーラムの趣旨・論点)</p> <ul style="list-style-type: none">● AIエッジコンピューティングに期待するもの<ul style="list-style-type: none">—AIエッジコンピューティングとクラウド—広がる産業上の利用分野● AIエッジコンピューティングをめぐる最近の動向<ul style="list-style-type: none">—エッジコンピューティングの動向—ニーズとサービスの実現に向けた最適解—海外各社の取り組み● 5Gに向けたモバイルネットワークへのエッジAIの活用<ul style="list-style-type: none">—5Gに向けたモバイルエッジコンピューティングへの取り組み—エッジに求めるAI機能—適用事例と将来に向けて● 5G時代を見据えたAIエッジコンピューティングの開発<ul style="list-style-type: none">—AIエッジへの高度自律的学習機能の搭載—5Gにおけるエッジ～クラウド連携—ドローン制御への実証実験● エッジAIにおける高速応答とリアルタイム性、精度向上への取り組み<ul style="list-style-type: none">—今なぜ、エッジAI、エッジコンピューティングなのか—エッジAIの技術課題と要求性能—AIアルゴリズムDBTの適用領域とユースケース—経験から得られたAI導入に際しての注意点		
<p>5G、IoTの普及に伴い、高速での膨大な数のマシン、端末の制御が必要な領域では、すべてのデータをクラウドで処理すると負荷が膨大になり、またネットワークでの遅延が無視できなくなるため、エッジで効率的に処理することが求められる。</p> <p>さらに、ネットが繋がらない環境、セキュリティを重視したい場合には、エッジにAIエンジンを搭載してリアルタイムに制御を行う要求が高まっている。</p> <p>本フォーラムでは、このような課題認識、エッジ処理の必要性、および動向に対して、海外各社ではどのような取り組みを行い、それぞれの産業分野での方向性と課題解決に向けた取り組みについて見て行く。</p> <p>モバイル基地局等では、エッジ側で分散処理を行うと経済的なコスト実現が課題となる。モバイルキャリアにおけるAIエッジコンピューティングの適用可能性について、国内モバイルキャリアの取り組みについて紹介する。</p> <p>一方、エッジで知的な判断を行うAI推論エンジン、および推論だけではなく従来はデータセンターで実施していたような学習についてもエッジ側で行うソリューションについても研究開発が行われている。</p> <p>そうした中で、GAFAと呼ばれる米国の大手IT企業は、AI専用チップの開発に乗り出している。自動運転、ロボットなど、クラウドでは処理が間に合わないエッジに近い領域で適用領域が広がりつつある。</p>		

アマゾンやグーグルがクラウドの覇者になったように、誰がエッジコンピューティング、エッジAIをリードし、プレイヤーが変わって行くかが注目される。

日本発の革新的技術を紹介し、それぞれのビジネスへの適用可能性を探るため、調査会社、モバイルキャリア、ベンチャー企業が取り組んでいる内容について紹介し、5G時代のAIエッジコンピューティングが切り開くリアルタイムな世界を展望する。

(座長-総合司会)

東京大学 名誉教授 齊藤 忠夫

13:00 ～ 13:20	<p>(基調講演)「エッジAIコンピューティングに期待するもの」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● エッジコンピューティングとクラウド ● 広がる産業上の利用分野 	質疑応答	齊藤 忠夫氏 東京大学 名誉教授
13:20 ～ 14:10	<p>「AIエッジコンピューティングをめぐる最近の動向」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● エッジコンピューティングの動向 ● ニーズとサービスの実現に向けた最適解 ● 海外各社の取り組み 	質疑応答	左 高 大 平 氏 (株)情報通信総合研 究所 主任研究員
14:10 ～ 15:00	<p>「5Gに向けたモバイルネットワークへのエッジAIの活用」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 5Gに向けたモバイルエッジコンピューティングへの取り組み ● エッジに求めるAI機能 ● 適用事例と将来に向けて 	質疑応答	遠 藤 英 輔 氏 (株)NTTドコモ ネットワーク開発 部 ネットワークアー キテクチャ 担当部長
(休憩/意見交換/名刺交換) (15:00～15:10)			
15:10 ～ 16:00	<p>「エッジAIにおける高速応答とリアルタイム性、精度向上への取り組み」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 今なぜ、エッジAI、エッジコンピューティングなのか ● エッジAIの技術課題と要求性能 ● AIアルゴリズムDBTの適用領域とユースケース ● 経験から得られたAI導入に際しての注意点 	質疑応答	出 澤 純 一 氏 (株)エイシング 代表取締役 CEO
16:00 ～ 16:50	<p>「5G時代を見据えたAIエッジコンピューティングの開発」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● AIエッジへの高度自律的学習機能の搭載 ● 5Gにおけるエッジ～クラウド連携 ● ドローン制御での実証実験 	質疑応答	杉 田 博 司 氏 KDDI(株) 経営戦略本部・次 世代基盤整備室

- 当日、講師の都合により、代理講師による講演あるいは講演順序を変更する場合があります。
- 受講者交替可。

本フォーラムに関連する部門 あるいはご関心をおもちの部門に
ご回覧下さいますようお願い申し上げます。

「マルチメディア推進フォーラム」委員会

(順不同 敬称略)

委員長
齊藤 忠夫 東京大学
(運営諮問委員会幹事)

代表幹事
齊藤 忠夫 東京大学
副代表幹事
服部 武 上智大学
森川 博之 東京大学
成宮 憲一 一般社団法人
科学技術と経済の会

幹事
鈴木 茂樹 総務省
秋本 芳徳 総務省
間宮 淑夫 内閣官房
渡邊 昇治 経済産業省
西尾 崇 国土交通省
立川 敬二 ㈱ハイテクノロジー推進研究所
(宇宙航空研究開発機構 元 理事長)

有富寛一郎 ㈱スカパーJSAT 顧問
片山 泰祥 情報通信ネットワーク産業協会 専務理事
児玉 圭司 日本放送協会 技術局長
井伊 基之 日本電信電話㈱ 代表取締役副社長
滋谷 直樹 東日本電信電話㈱ 代表取締役副社長
川添 雄彦 日本電信電話㈱ 取締役 研究企画部門長
加藤 薫 ㈱NTTドコモ 取締役
森林 正彰 NTTコミュニケーションズ㈱ 代表取締役副社長

木村 丈治 NTTアドバンステクノロジー㈱ 代表取締役社長
藤本 秀雄 ㈱エヌ・ティ・ティ エムイー 代表取締役社長

木谷 強 ㈱NTTデータ 名誉教授
内田 義昭 KDDI㈱
宮川 潤一 ソフトバンク㈱
石原 直 東京大学大学院
浅見 徹 ㈱国際電気通信基礎技術研究所
遠藤 信博 日本電気㈱
新野 隆 日本電気㈱
河村 厚男 日本電気㈱
松本 端午 富士通㈱

安田 誠 ㈱日立製作所
伊藤 明男 ㈱日立国際電気
川崎 秀一 沖電気工業㈱
ジジィン・ワン ハブソリューションズ&ネットワークス

(主な設立発起人)

齊藤 忠夫 東京大学 名誉教授
吉川 弘之 東京大学 元 総長
立川 敬二 ㈱ハイテクノロジー推進研究所 取締役・特別顧問
(宇宙航空研究開発機構 元 理事長)

杉本 榮一 自由民主党 元 政務調査会 調査役

(最高顧問)

甘利 明 元・経済産業大臣
金子 一義 元・国土交通大臣
林 芳正 元・防衛大臣

取締役常務執行役員
代表取締役 執行役員 副社長
代表取締役 副社長執行役員 兼 CTO
工学系研究科 特任教授
代表取締役社長
代表取締役会長
代表取締役 執行役員社長 兼 CTO
執行役員常務
執行役員常務
テクノロジーソリューション部門
副部門長
執行役員
執行役専務
代表取締役会長
代表取締役社長

マルチメディア推進フォーラム — PART805 — 開催

●日時 2019年 10月 10日 (木) 13時00分～16時50分

●会場 アイビーホール 青学会館

〒150-0002 渋谷区渋谷4-4-25 TEL 03-3409-8181(代)

●参加申込要領

●受講料 50,710.- (受講者1名交替可) 資料・コーヒー・消費税を含む

●申込先 事務局 ハイテクノロジー推進研究所 TEL (03)-3498-0911
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-3-10 秀和青山レジデンス 409 FAX (03)-3498-0909
E-mail hightech@ahri.co.jp

●申込方法 申込書に所定の事項をご記入の上、FAX又は、Web上
(<http://www.ahri.co.jp>)にてお申し込み下さい。

●送金方法 銀行振込 **みずほ銀行 渋谷中央支店 1554932(普)**
三菱東京UFJ銀行 渋谷明治通支店 3504194(普)
※送金が開催日以降による場合は予めご連絡下さい。
※領収書のご必要の方は、通信欄にご記入下さい。

●キャンセル フォーラム開催前、10月3日までのキャンセルは可能ですが、お電話にてご連絡をお願い申し上げます。その後のキャンセルについては、お申し受けできませんのでご了承下さい。その場合は代理の方の出席が当日配布の「資料」の送付をもって出席とさせていただきます。

●申込書について ご記入頂いたご連絡先は本フォーラムの事後連絡として使用させていただきます。尚、今後開催されるフォーラム等のご案内を配信(又は送付)させていただきますが、今後 弊社からのご案内を停止される方は、事務局までご連絡いただけますようお願い申し上げます。



●地下鉄 銀座線・千代田線・半蔵門線
表参道駅下車(青山学院方面出口) B1出口・B3出口より徒歩5分

●都営バス 渋谷駅前 ↔ 新橋駅北口
(渋谷8) 南青山5丁目下車

<http://www.aogaku-kaikan.co/jp>

きりとり線

「マルチメディア推進フォーラム」PART805 申込書

(申込日) 月 日

会社名	TEL () -	
	FAX () -	
	E-mail:	
会社住所	〒	
NO	受講者・所属・役職	受講者氏名(ふりがな)
支払方法	●銀行振込 () 銀行 ●年 月 日振込予定	通信欄 請求書-要・不要